

春はるの日に、三香原みかのはらの荒墟くわうきよを悲かなしび傷いたみて作つくる

歌うた一首 并あはせて短歌たんか

一〇五九番

三香原みかのはら 久邇くいにの都みやこは 山高やまたかみ 川かはの瀬清せきよみ 住すみ
良よしと 人ひとは言いへども あり良よしと 我われは思おもへど
古ふるりにし 里さとにしあれば 国くに見れど 人ひとも通かよはず
里見さとみれば 家いへも荒あれたり はしけやし かくあり
けるが 三諸みもろつく 鹿脊山かせやまのまに 咲さく花はなの色いろ
めづらしく 百鳥ひゃくとりの 声こゑなつかしき ありが欲ほし
住すみよき里さとの 荒あるらく惜をしも